

平成 28 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取 組 の 内 容		校 内 評 価		学校関係者評価 (3月1日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の学習希望や進路希望を実現するため、専門教科及び普通教科の基本科目から発展応用科目への継続性を重視した教育課程編成により特色ある学校づくりを推進する。</p> <p>②言語活動の充実を図るとともに、思考力・判断力・表現力を育成するための授業改善と上級資格の取得を組織的に推進する。</p>	<p>①生徒の特性や地域性、育てたい生徒像を踏まえ、総合ビジネス科及び普通科の教育課程の編成を行うとともに、1 単位年間 1,750 時間を確保するため、行事等の精選や教育課程上の位置づけを明確にする。</p>	<p>①総合ビジネス科及び普通科の教育課程の編成を行うとともに、行事等の教育課程上の位置づけを明確にする。</p> <p>①授業時間数確保のため、行事についてのあり方を準備段階から検討する。</p>	<p>①行事等のあり方や教育課程上の位置づけを明確にし、1 単位年間 1,600 時間を確保できたか。（年間行事授業時間数シートを活用して確認する）</p>	<p>①行事等のあり方や教育課程上の位置づけを明確にし、1 単位年間 1,600 時間を確保できなかった。</p>	<p>①行事等のあり方や教育課程上の位置づけをより明確にし、年間行事予定を作成する。1 単位時間を 55 分にし、1 単位年間 1,750 時間を確保する必要がある。</p>	<p>①4 年間の目標達成のため努力がみられた。行事等が多くあるため時間の確保が必要。学校は学びの場所ですが、それ以外の何に役に立つかわからない行事は心の学び場となり精神や友情その他いろいろに反映する。</p>	<p>①平成 29 年度新校の総合ビジネス科及び普通科の教育課程の編成を行うことができた。また、1 単位年間 1,750 時間の授業確保が計画段階ではできたが、実施段階で確保することが課題である。</p>	<p>①1 単位年間 1,750 時間の実施段階での授業確保できるように、定期的な検証を実施し、授業確保に取り組む。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①全職員がカウンセリングマインドを身に付け、課題のある生徒に対応する専門知識や個別指導体制を充実させる。</p> <p>②服装や言葉遣いなど、基本的な生活習慣を身に付けた一流の高校生を育成するための取組みを組織的に行う。</p>	<p>①スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを活用する。</p> <p>②生徒の基本的な生活習慣の確立を目指し、全職員が一丸となって頭髪服装指導及び遅刻指導等を行う。</p>	<p>①課題のある生徒に対して、学年でケース会議を開いて対策を検討し、必要があればスクールカウンセラー等を活用し、外部機関と連携して対処する。</p> <p>②再登校指導を継続して服装・頭髪の指導を徹底し、さらに遅刻指導を加え、日頃の生活習慣の改善を念頭に置いた指導を進める。</p>	<p>①課題のある生徒に対して、適切な回数のケース会議を開くことができたか。</p> <p>①スクールカウンセラーの活用をすすめたか。（活用率 80%）</p> <p>②遅刻生徒の回数（人数）は月別人数を比較して減少させることができたか。</p> <p>②頭髪・服装指導に関する指導人数は年間通して減少させることができたか。</p>	<p>①課題のある生徒への対応としてその都度関係者が集まってケース会議を開き、対策を検討した。スクールカウンセラーの活用も概ね達成できた。</p> <p>②身だしなみに関しては、女子のスカートを含め、かなり改善できた。遅刻者数も前年度と比較すれば大きく改善できた。</p>	<p>①スクールカウンセラーの活用はさかんに行われたが、最も受けさせたい生徒が家庭状況等で実現できていないのが実情である。希望を募るだけでなく、積極的に働き掛けることも重要である。</p> <p>②遅刻は減少したが、相変わらず欠席、早退数は多い。健全な生活のための指導が必要とされる。頭髪では長期休暇中に若干名染める生徒がいるので、注意を喚起したい。</p>	<p>①教員がしっかりと学生に対しカウンセリング、生活指導をしており良い。</p> <p>②教員に対して仕事の分量や幅も広がっているため教員の精神面のフォローが必要。いろいろなところで減少できて良いと思う。先生方の負担が多くならないようお願いしたい。指導の成果により校内での服装の乱れは見られない。</p>	<p>①ケース会議の開催や S C の活用により課題を解決できるケースがあったが、積極的な学校側からの働き掛けが課題である。</p> <p>②遅刻等は減少したが、欠席、早退数の減少に向けて全職員で取り組む必要がある。</p>	<p>①学年の教育相談コーディネーターが中心となり、相談しやすい体制を構築する。</p> <p>②再登校指導等、全職員による取組みをさらに進める。</p>
3 進路指導・支援	<p>①確かな職業観や勤労観を身に付けさせるため、学年の成長過程に応じた継続性のあるキャリア教育を推進する。</p> <p>②生徒一人ひとりに自己実現のための知識と技術を習得させるとともに、希望する進路を実現するため、進路指導の改善充実を図る。</p>	<p>②進路未決定者をなくすため、将来設計に必要な知識や技術を習得させるとともに、サポートティーチャーを活用する。</p>	<p>②早期の情報提供や説明会、外部講師や高大連携授業を通じて、生徒・保護者の進路意識の啓発を行う。</p> <p>②進路に悩みを抱えている生徒に対し、担任だけでなく担任とは異なった視点からアドバイスしてもらえるサポートティーチャーを活用した進路相談を充実する。</p>	<p>②説明会、外部講師や高大連携授業を通じて、生徒・保護者の進路意識は向上したか。（アンケートを集約して確認する）</p> <p>②サポートティーチャーへの相談回数が、前年度（10 回程度）より増加したか。（回数だけでなく満足度も、アンケートを集約して確認する）</p>	<p>②1・2 年は進路行事が残っているためアンケートは未実施である。3 年へのアンケートでは、78% の生徒が、「進路行事が、自分の進路に対する積極的な取り組みのきっかけとなった」と答えた。</p> <p>②3 年では 5 人に 1 人以上が相談に行き、その半数以上が複数回利用し、また保護者も加わることもあった。</p>	<p>②来年度から始まる普通科に対し、説明会への工夫が必要である。</p> <p>②進路意識が高まる 3 年生には、サポートティーチャーに多くの生徒が相談し、適切なアドバイスを受け、信頼されているのがアンケートからよくわかる。それに対し 1・2 年生では、サポートティーチャーの存在すら知らない生徒が 5 人中 4 人に上った。存在を知ってもらおう工夫が必要である。</p>	<p>②次年度より普通科が増えることにより新たな進路指導が必要。商業を学ぶ人数が減る中でしっかりと技能を身につけてもらいたい。</p>	<p>②平成 29 年度新校に向けて、併置校としての進路指導の取組み方向が確定したが、それを実現するための取組みの確実な実施が課題である。</p>	<p>②校内で、新校の進路指導の取組みが確実に実施できるよう、組織の構築を急ぐ必要がある。</p>

4	地域等との協働	<p>① 学校施設を利用し、生徒及び職員と地域の方々との交流を深める取組みを推進する。</p> <p>② ボランティア活動やチャレンジショップ運営の機会を利用し、広報活動の充実を図り、地域への情報発信に努める。</p>	<p>② チャレンジショップの運営方法や広報を工夫し、地域密着型の開かれた学校を目指す。</p>	<p>② 地域で生産された商品を積極的に取扱い、地元経済の活性化に寄与する。</p> <p>② 地元に関連したイベントを企画し、広い地域に広報活動を展開していく。</p>	<p>② 地元企業から取り寄せる商品数を2点以上増やすことができたか。</p> <p>② 広い地域への広報活動により、年間集客数が増加したか。</p>	<p>① チャレンジショップの営業を通して地域の方との交流が行えた。</p> <p>② 地域に根差した店舗経営を根幹に地元のみかんや野菜の販売を行った。また地元企業と連携して新商品の開発を行った。</p> <p>② 年間を通して6回程度のイベントを実行することができた。</p>	<p>② イベントの宣伝が不十分など広報活動を充実することができなかった。そのため集客も昨年と比べ減ってしまった。次年度は学校付近だけでなく、より広い地域で広報活動を展開していきたい。</p> <p>② 地元企業から5点ほどの商品を仕入れることができた。次年度も幅広い商品を取り揃えていきたい。</p>	<p>① 商品の生産者とのつながりなどがあり大変良い教育である。</p> <p>② チャレンジショップの運営の方法を考え直して地域により親しみやすいお店にしていきたい。</p> <p>チャレンジショップが小田原の地域にとってもさらに密着型になるとよいのではないかと、イベントの宣伝などが今後必要である。</p> <p>P T A に対して P T A 総会等でもっと宣伝する必要がある。</p>	<p>① チャレンジショップの営業を通じた地域との交流が進むように取り組む必要がある。</p> <p>② 地元企業と連携した商品開発に取り組む必要がある。</p>	<p>① チャレンジショップ委員会が積極的に課題解決に向けて取り組む必要がある。</p> <p>② 課題研究等の授業を通して、積極的な地元企業との商品開発に取り組む制度作りが必要である。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>① 学校周辺の環境に配慮した災害への安全対策を一層強化させる体制整備を推進する。</p> <p>② 事故不祥事を起こさない、風通しの良い職場環境を構築するとともに、職員及び生徒が生き生きと活動できる学校づくりを行う。</p>	<p>① 災害への備えを充実させ、特に津波に対する対策を強化する。</p> <p>② 事故不祥事を根絶させるため、神奈川県職員としての自覚を持ち、県民や地域住民に信頼される学校づくりを進める。</p>	<p>① 近隣住民や中学生との津波合同避難訓練及び防災講演会を実施するとともに、学校残留生徒用食量の充実に努める。</p> <p>② 事故不祥事防止のための校内研修を企画・実施する。</p>	<p>① 災害時における役割を確認できたか。また、教員・生徒の防災意識を高めることができたか。（アンケート方式による肯定的な回答90%）</p> <p>② 校内研修を実施し、職員の意識の向上を図ることができたか。（事故・不祥事0件）</p>	<p>① 津波合同避難訓練を実施し、小田原市より講師を招き、地震津波想定マップの解説を受けた。テントや水、食糧備蓄を増やし、DIG 訓練を実施した。</p> <p>② 定期的な事故不祥事防止会議を開催できた。</p>	<p>① 訓練時に生徒の点呼に時間がかかることや備蓄品で寝具が不十分であること、時間帯により残留生徒が増加する可能性に配慮が必要。外階段や屋上補強が課題。</p> <p>② 8月の事故不祥事防止会議では、夏季休業と進路業務で、職員の出席率が低くなってしまった。</p>	<p>① 今後も、津波などの合同避難訓練を実施し、備えてほしい。</p> <p>津波地震等の災害に対する備えには完ぺきではないので、できることを大事にしていく。</p> <p>一部部活動で盗難があった。外部からの侵入者の判断が難しいと思うが、チェックの強化が必要である。</p>	<p>① 津波合同避難訓練の内容が充実に向けて取り組むことができた。被災後の生活を考えると、寝具等の整備が課題である。</p> <p>② 事故不祥事防止会議が開催できたが、職員の出席率が低かった。</p>	<p>① 津波合同避難訓練に加えて、被災後の生活について、生徒が考え体験する機会を作るように改善を進める。</p> <p>② 職員の出席率が向上するように、夏休みの開催を変更する。</p>